

# 【ブギドノン地域の生計向上支援】

- 現地活動に参加して -

《PASC通信》  
No.-01  
2022年4月





# はじめに

2022年、コロナ禍による海外渡航に関する条件が緩和されてきたこともあり、フィリピンにおける貧困削減への挑戦の第2ステージを開始しました。

第1ステージは、2010年2月から2019年4月までに、計12回現地活動を行いました。個人資金での活動なので大きな成果は報告できませんが、畜産（鶏、豚、山羊）や農業（ココナッツ、マンゴ、コーヒー、野菜など）、そして少額ですが奨学金提供を継続してきました。

第2ステージは北部ミンダナオ地域の先住民族の人々が生活する村々の生計向上を目的にした、【ブギドノン地域開発支援】がテーマです。

## 2014年4月【カイビガン】通信 No.05 —フィリピンに於ける貧困削減への挑戦— 第2ステージへの展望



## 【ブギドノン地域の生計向上支援】

《PASC通信 No.1》

— 現地活動に参加して —

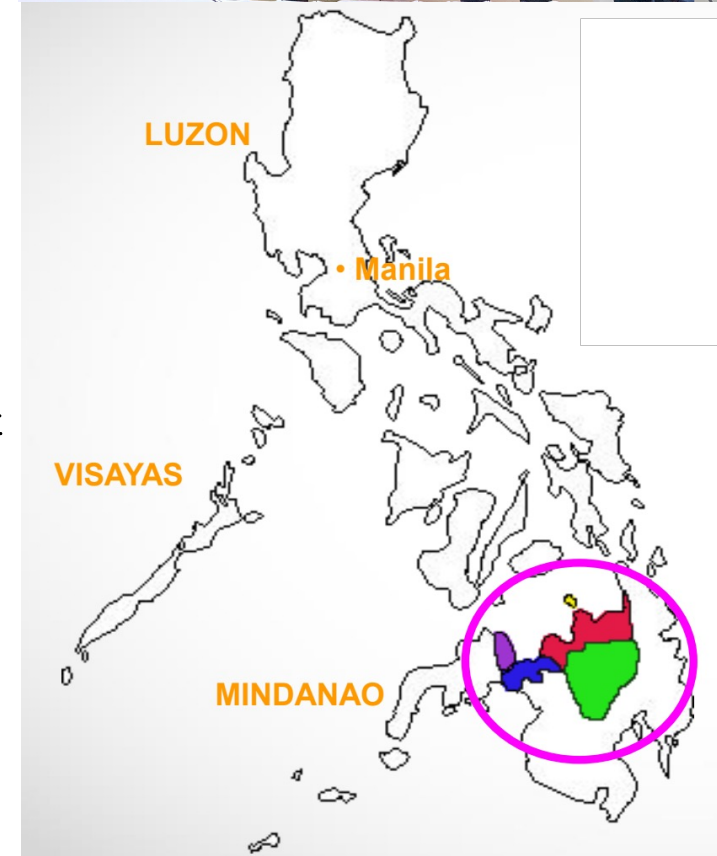
2022年4月





# 支援活動内容及び活動エリア

- **この始まり:**第2ステージのきっかけは「フィリピンにおける貧困削減への挑戦」の、第1ステージの活動パートナーであるウィルマさんの仕事からみです。彼女はフィリピン政府の技術教育技能開発庁(以下、TESDA)地域開発局に勤務しています。彼女が仕事で通い始めたミンダナオ島のイスラム教徒が暮らす先住民族村の状況を知る毎に、「何か支援できないものか?」との思いが**この始まり**です。
- **主な活動メンバー:**第2ステージグループメンバーは今のところ4人です。右の写真に向かって、右から①ジョナスさんは、国家情報調整局(NICA)北ミンダナオ地方局でブギドノン州担当者 ②大久保さんは、弊社のシニアコンサルタント ③はTESDAのウィルマさん この3人と私は、全ての日程、全ての行動を共にしています。④はジョナスさんの上司である局長さんで、ジョナスさんを私たちの活動に付けてくれたり、我々の活動を積極的に支援してくれています。ちなみに⑤久米です。
- **これまでの活動:**第2ステージの最初の支援は資金援助で、2021年12月に入ってからです。主な支援は、テラピア(和名:いすみ鯛)の養殖池建設資材購入費、養鶏の鶏舎建設、きのこ栽培設備費、ウィルマさんの活動費などの資金援助です。
- **活動エリア:**右の地図で**ピンク**円で囲まれた北部ミンダナオです。そこには**赤の東ミサミス州**、**緑のブギドノン州**、**青の北ラナオ州**、**紫の西ミサミス州**があり、**緑のブギドノン州**が主な活動エリアです。しかし、エリアが広大すぎるので、しばらくは一つの村をモデルに活動を展開します。



# 第1回現地活動日程

日程	主な行動
4月1日(金)	マニラへ移動
4月2日(土)	a)カガヤンデオロへ移動 b)国家情報調整局、地方局長への表敬訪問 ☞会議室にて昼食をとりながら歓談 c)チーム内協議☞調査の目的や活動日程の調整など
4月3日(日)	a)支援するBukidnon州の先住民族の地区を訪問 ☞Sitio Kibulag, Barangay Lantud, Talakag ☞宿泊地から車で2時間 ☞NICA地方局長、TESDA地方局長などが同行 b)ティラピア養殖の先行事例調査 ☞昨日の豪雨影響で養殖池の視察はできず、公民館で聞き取り c)ティラピアのエサ販売店の調査 ☞餌の種類や価格など
4月4日(月)	活動のまとめと協議
4月5日(火)	1)BARMMのTESD Lanao del Sur Province Office訪問 ☞カガヤンデオロから車で約3時間 ☞国境での検問もなく通過 ☞5時間ほど滞在したが緊張感なし 2)TESDA Region 10 Iligan Training Center訪問 ☞ラナオとカカヤンデオロ間の幹線道路に隣接
4月6日(水)	1)マニラへ移動 2)帰国前のPCR検査受診
4月7日(木)	1)TESDAのMs. Wilmaとの協議 2)日本大使館のミンダナオ開発担当者への報告 ☞TESDAのMs. Wilmaがアレンジ 3)PCR検査結果証明書の受領 4)TESDA本部地方自治体・コミュニティ支援(CLGUS)部長と面談 ☞Ms. Wilmaの上司、初対面であったが夕食時に歓談。 ☞公用車使用やMs. Wilmaの協力に対するお礼を伝えた
4月8日(金)	帰国



# 写真による活動紹介



ティラピアの値段  
現地のスーパーで1kgが230ペソ  
(約570円)



ティラピア養殖池の前で記念撮影



村に、TESDA支援で、植樹されたはカカオやコーヒーの苗



ティラピア養殖池



2022年1月  
ティラピア養殖池建設作業



トライシクル  
自転車とバイクの2タイプあり



バンサモロ暫定自治政府の職業訓練局を表敬訪問



# 活動のまとめと今後の活動計画

## 支援ニーズ

ミンダナオは40年以上の国内紛争により地域開発が大きく遅れている。国も大統領のリーダーシップのもと、《National Peace Framework》政策が展開され貧困地域の生計向上に取り組んでいる。

### 活動のまとめ

#### テラピア養殖での課題は、餌代のコスト削減

- 最寄りの小さな都市タラカンで餌は購入できる
- タラカンから支援するラントッド村まで車で30分
- 山間部の村まで公共交通機関がない
- トライスクル(サイドカー付きバイク)を使うので餌代が高い
- 行政はラントッドのような119の村の生計向上を優先させることを決定している

#### TESDA事業の現状と課題

- TESDAは地域開発の一環としてCBTを実践している
- CBTはCommunity Based Trainingの略語で、コミュニティにリーダーを育成して、短期間の職業訓練を実施させるプログラム
- ラントッド村にも小さな研修所(小屋)を建設している
- しかし、TESDAが認定したカリキュラムに沿った訓練の実施が基本となるために、山間部や少数民族の生活様式や伝統文化など諸事情とマッチングしていない
- ブギドノン州は広大で、多くの村が支援を必要としている

### 今後の活動計画

テラピアのペレット餌加工機による餌代コスト削減及び生産性向上をJICAの「**中小企業・SDGsビジネス支援事業**」による支援を検討する。  
(ペレットタイプの餌はテラピアに限らず畜産業に使える)

TESDA地方訓練施設の指導員などを介して、コミュニティリーダー育成をJICA「**草の根技術協力事業**」で支援できないか検討する。